内陸ハブシティーの実現を目指す

相模原市

リニア新幹線中間駅 橋本駅周辺で誘致決定

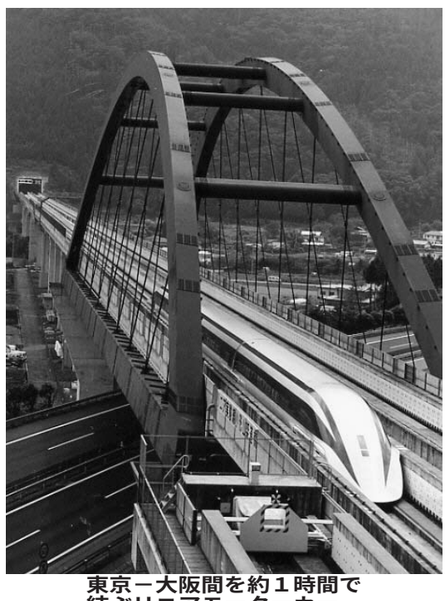
神奈川県北部の内陸に位置する相模原市は、交通網の整備が進み、交通の要となりつつある。2013年度中に首都圏中央連絡自動車道「さがみ縦貫道」が全面開通するだけでなく、27年に開通予定のリニア中央新幹線の中間駅を橋本駅に誘致することで合意した。リニア開通による産業への効果は絶大と見ており、次世代の都市づくり、研究開発拠点の集まる産業都市を目指す。

次世代の都市づくり

交通網・工業団地整備進む

相模原市は10年4月に政令指定都市に移行し、2年が経つ。「まだベッドタウンという位置づけが強い」（産業・雇用政策課）としながらも、道路網の整備とリニア新幹線の新駅誘致に向けて着々と動きをみせる。製造業で発展してきた同市の研究開発基盤のさらなる発展に期待を寄せる。

リニア新幹線を使えば、東京駅からこれまで1時間かかったが、約10分に短縮でき、名古屋駅からも約30分と大幅に短縮できる。この利点を元に、「都心にはない機能を担うこと、海外の企業を橋本駅近辺や相模原市内の工業団地に誘致することで次世代の都市づくりを進めたい」（同）としている。



東京－大阪間を約1時間で結ぶリニアモーターカー

相模原市橋本駅周辺に中間駅誘致の合意を報告する黒岩祐治県知事㊨と加山俊夫相模原市長（2月3日、県庁）

また、10年度から工事を進めてきた圏央道の一部区間「さがみ縦貫道」は、13年度中に全面開通する予定だ。地元の国道16号線や129号線の渋滞緩和が期待できるだけでなく、混雑しやすい首都高速道路を経ずに北関東以北など、全国に一層アクセスしやすくなる。

八王子ジャンクション―高尾山インターチェンジ（IC）は25日に開通。海老名IC―相模原IC間は12年度内、相模原IC―高尾山ICは13年度内に開通する見込みだ。14年に開通予定の城山ICに近い金原地区、川島・大島界地区、相模原ICに近い当麻地区、麻溝台・新磯野地区に新しい工業団地を順次オープンし、企業誘致施策にも力を入れる。

リニア駅誘致と工業団地整備のメリットを合わせれば、東西からアクセスしやすい橋本駅周辺に本社機能や研究開発機能の拠点を、そこからアクセスしやすい工業団地内に工場を設置するモデルも考えられる。

相模原市は1955年の工場誘致条例制定以降、製造業で発達してきた。「独自技術を持つ企業や技術者も多く、研究開発の要請に耐えうる土壌がある」（同）とし、研究開発部門の集積地として海外企業を積極的に誘致していく考えだ。

また、相模原市は内陸部に位置しており地盤も安定なことから、災害リスクの低さや工場設備の精度保持の面で、工場立地に利点があるのも特徴だ。相模原駅に近接し、13年度末に一部返還される相模総合補給廠跡地の約17㌶を利用して、防災拠点の整備も検討しているという。

東西の軸上に位置し、さらにアクセスが向上することを見込み、物流拠点の集積も進む。13年秋には三菱地所とラサールが相模原市中央区の田名工業団地にあるキャタピラージャパンの敷地約21万平方㍍を購入、最大級の物流拠点「ロジポート相模原（仮称）」を12年夏に着工し、13年秋に完成予定。物流拠点への土地転用の申し出は11年度だけで7件、17㌶分に及んだ。

リニア新幹線が開通すれば、経済活性化が見込めるのは相模原市に限らない。同市と多摩地区、県央地区で「広域交流拠点基本計画検討委員会」を設置し、2月10日に1回目の協議を終えたという。今後、橋本駅を中心とした産業雇用政策を研究を進めていく方針だ。

宇宙と産業の街　JAXAと連携

相模原市中央区には宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所の中核となる相模原キャンパスがある。2010年6月に奇跡的な帰還を果たした小惑星探査機「はやぶさ」で一躍有名になった。

08年12月に相模原市は、JAXA、東京国立近代美術館と3者で協定を結び、航空宇宙関連の講演会やイベント出展など文化事業で連携している。

相模原キャンパスの展示室は随時無料で開放しており、研究施設全体の特別公開をする7月の2日間を除いて年間約5万8000人が訪れる。

衛星の模型などを展示した展示室は随時無料開放している

リニア誘致 ―― 産業界の期待

産業振興 市に提言へ

相模原商工会議所
会頭
河本　洋次氏

リニア中央新幹線の中間駅設置は、首都圏南西部における広域交流拠点都市を目指す相模原市にとって、大きなインパクトがあります。

当商工会議所といたしましても、この度〝自立都市相模原〟実現のため「リニア中央新幹線を活かした産業振興まちづくり」について相模原市に提言をする予定です。

今後、さがみ縦貫道路の開通を含め広域的な交通体系が整備され、相模原市は広域連携の拠点都市としてのポテンシャルが更に高まります。人や企業に選ばれる「人・自然・産業が共生する活力あるさがみはら」の実現に向け、相模原市と連携して取り組みを進めてまいります。

新ビジネス機会創出

さがみはら産業創造センター社長
中嶋　隆氏

さがみはら産業創造センター（SIC）は、起業家や新分野進出を目指す中小企業のパートナー企業として、相模原市や中小機構などの出資で、平成11年に設立されたインキュベーションセンターです。

相模原市は、都心から比較的近い立地で、豊かな自然に恵まれたバランスのとれた地域です。さがみ縦貫道や津久井広域道路などの整備計画の実現も目前で、首都圏南西部の「広域交通拠点都市」としての役割が期待されます。産業創造のインフラの充実が進み、一言で表現すると「新しいものが生まれ育つ街」インキュベーションシティと言えます。

SICでは、入居企業へのサポート支援のほか、地域の中小企業や大学などと連携した技術開発支援など、今後も新たなビジネス機会の創出に向けた取り組みをいたします。

産業集積 さらに発展を

マーク電子社長
村山　忠雄氏

リニア新幹線中間駅誘致が橋本に決定し、今後の相模原市の更なる「ポテンシャルアップ！」に大きな期待を寄せています。特に産業面では、東京や名古屋への移動時間の大幅な短縮により技術情報や人的交流が活性化され、地域の発展に不可欠な産業集積も加速し、相模原市のさらなるネームバリュの向上につながればと思います。

1977年に相模原市に創立した当社は、電子機器のEMSを軸とし「開発設計～総合組立」を主体事業にしており、昨年11月には「医療機器分野」での製造許可の認可を受け、「関連した計測分野」へと、より高度な技術集積の中、発展してまいりました。

2013年度に全面開通を予定するさがみ縦貫道に加え、今回のリニア新幹線中間駅の決定により、内陸工業都市の中堅技術企業として積極的な事業展開を目指したいと考えております。

ISO13485（医療機器）認証取得
医療機器製造業認可工場（認可番号14BZ290021）
Medical Technology & Innovation
株式会社 マーク電子
かながわ中小モデル工場認定
〒252-0132　相模原市緑区橋本台1-31-1
技術開発センター・技術部直通
TEL.042-774-4134（代）　FAX.042-771-1226
http://www.markd.co.jp

新規創業者や新分野進出企業の方々に
オフィス・ラボ
を提供しています。
空室状況 はお問い合わせください。
株式会社さがみはら産業創造センター（SIC）
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21　TEL.042-770-9119
www.sic-sagamihara.jp
SICの事業：●経営サポート　●投資　●人材育成　●連携　●ラボ・オフィス

産業界の活力で新相模原を創出
会員とともに行動、変革、そして未来へ
相模原商工会議所
URL　http://www.ssp21.or.jp
会頭　河本　洋次　副会頭　阿部　邦雄
副会頭　小俣　邦正　副会頭　原　清助
副会頭　石塚　良昭　専務理事　座間　進
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3　TEL042-753-1315（代表）　FAX042-753-7637

地域経済の活性化にむけて、
中小企業への支援、産業情報発信等を実施
財団法人 相模原市産業振興財団
理事長　河本　洋次
〒252-0239　相模原市中央区中央3－12－3 相模原商工会館本館4階
TEL.042-759-5600　FAX.042-759-5655
http://www.ssz.or.jp/